

高橋英樹^{a,*}, 東 隆行^b: 菅原繁蔵の『樺太植物図誌』と『樺太植物誌』

^a 北海道大学総合博物館

^b 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園

Hideki TAKAHASHI^{a,*} and Takayuki AZUMA^b: “Illustrated Flora of Saghalien” and “Flora of Saghalien” by Shigezo Sugawara

^aThe Hokkaido University Museum, Hokkaido University, N10 W8, Kita-ku, Sapporo, Hokkaido, 060-0810 JAPAN;

^bBotanic Garden, Field Science Center for Northern Biosphere, Hokkaido University, N3 W8, Chuo-ku, Sapporo, Hokkaido, 060-0003 JAPAN

*Corresponding author: hide@museum.hokudai.ac.jp

(Accepted on January 5, 2021)

Summary: Shigezo Sugawara published “Illustrated Flora of Saghalien, vols. I–IV” in 1937–1940. After his death, his son Nobumitsu Sugawara (pen name: Kotaro Samukawa) changed the title, corrected the errors, and reprinted the books as “Flora of Saghalien, vols. I–IV” in 1975. Although the former original publication has often been cited by the latter name, both should be cited separately as “Illustrated Flora of Saghalien” (1937–40) and “Flora of Saghalien” (1975), respectively.

戦前に菅原繁蔵により出版された『樺太植物図誌 Illustrated Flora of Saghalien』4巻 (Fig. 1A) は、戦後に一部訂正・改題され『樺太植物誌 Flora of Saghalien』4巻 (Fig. 1D) として復刻された。この書名と出版年についてしばしば誤って引用され、混乱を招いているので注意を喚起したい。

戦前の樺太庁博物館に在職した植物研究者、菅原繁蔵は『樺太植物図誌』の第一巻を1937年、第二巻を1939年、第三・四巻を1940年に出版した (Fig. 1A: 菅原 1937, 1939, 1940a, b)。現在でも北方植物研究者により引用される重要文献である。背表紙は英文だが本文は和文で、英文・和文のタイトルページを Fig. 1B, C に示す。その後これら4巻は戦後の1975年、繁蔵の死後に国書刊行会から一部訂正・復刻され、その際に『樺太植物誌 Flora of Saghalien』と改題された (Fig. 1D)。その英文・和文のタイトルページを Fig. 1E, F に示した。復刻は芥川賞作家の寒川光太郎が主導した。寒川

光太郎とは菅原繁蔵の長男・菅原憲光その人である。戦前の『植物図誌』と戦後の『植物誌』との間では装丁や背表紙が全く異なる (Fig. 1A, D) が、誤植等の訂正をした後に本文・図版をページ番号も含めて複写したものである (Fig. 2)。しかし書名について後代の多くの研究者が誤解している。

戦前の『樺太植物図誌』(菅原 1937, 1939, 1940a, b) と戦後、一部訂正・復刻された『樺太植物誌』(菅原 1975a, b, c, d) の英文タイトルページ (Fig. 1のBとE) を比較してほしい。戦後復刻された『樺太植物誌』の英文タイトルページ (Fig. 1E) は、戦前の英文タイトルページ (Fig. 1B) の最上部 (I Illustrated) を削除しIだけを大きなフォントに変更したものである (和文タイトルページは全面的に変更されている)。これにより、戦後出版された『樺太植物誌第一巻 I Flora of Saghalien』(1975) (Fig. 1D, E, F) のみを読む人は、『樺太植物誌第一巻』が戦前の1937年に出版されたと誤解するだろう (第2巻以降も同様)。つまり読者は「戦前の1937–40年に菅原繁蔵が『樺太植物誌 Flora of Saghalien』4巻を出版した」と思うが、戦前の1937–40年に菅原重蔵が出版した著作は、『樺太植物図誌 Illustrated Flora of Saghalien』である。

戦後に一部訂正・復刻された『樺太植物誌第一巻』の巻頭に、息子寒川による「復刻にさいして」が書き付けられている。ここで寒川は「原著書名は『樺太植物図誌』だが、復刻に際し『樺太植物誌』と改め、当時の序文等は削除した。また著者

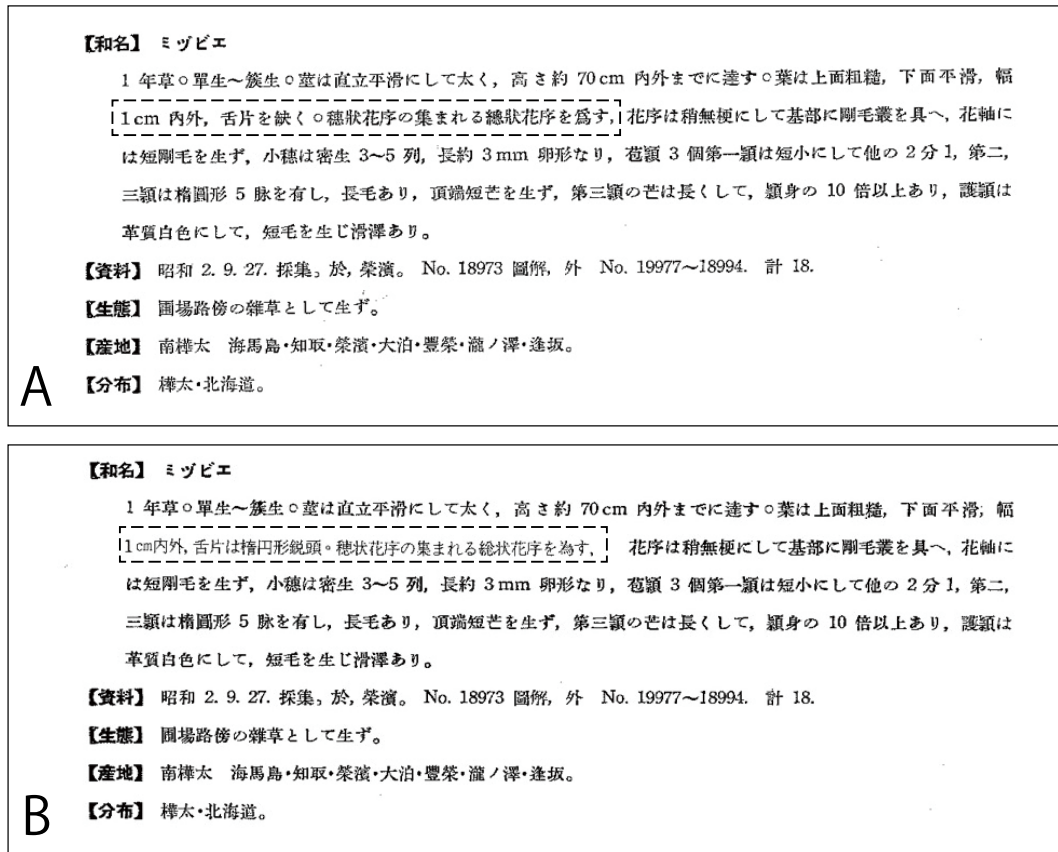


Fig. 3. Comparison of the Japanese description of *Echinochloa crusgalli* on page 301, showing the collected part by the broken line. A. "Illustrated Flora of Saghalien, vol. I" (1937). B. "Flora of Saghalien, vol. I" (1975).

図 3. *Echinochloa crusgalli* の和文記述 (301 ページ) の比較。破線で示した箇所が訂正されている。A. 『樺太植物図誌第一巻』(1937)。B. 『樺太植物誌第一巻』(1975)。

Saghalien』が戦前に出版されたと誤って引用されている。Sato and Ito (1989) では『樺太植物図誌』が戦前に出版されたと正しく引用されていたが、佐藤・高橋 (1994) や佐藤 (2007) では『樺太植物誌』が戦前に出版されたと誤って引用されている。著者も例外ではなく高橋・東 (2020) では『樺太植物図誌』が戦前に出版されたと正しく引用しているが、Takahashi (2009) や高橋 (2015) では『樺太植物誌』が戦前に出版されたと誤って引用していた。

『樺太植物図誌』が戦前に出版されたオリジナルで、『樺太植物誌』は戦後に一部訂正・改題された復刻版であり、別の書籍である。このため『樺太植物誌』が戦前の 1937–40 年に出版されたと誤解しないように注意が必要である。

摘要

菅原繁蔵は『樺太植物図誌』4巻を戦前の1937–40年に出版した。彼の死後、息子菅原憲光(ペンネーム:寒川光太郎)は書名を変更、誤字等の訂正をして、『樺太植物誌』4巻を1975年に復刻した。このため菅原繁蔵の著作を引用する際には、戦前のオリジナル版は『樺太植物図誌』(1937–40)、戦後の復刻版は『樺太植物誌』(1975)とすべきである。『樺太植物誌』が戦前の1937–40年に出版されたと誤って引用しないように特段の注意が必要である。

References 引用文献

Kadota Y. 1987. Genus *Trollius* L. (*Ranunculaceae*) in Japan. Bull. Natn. Sci. Mus., Tokyo, Ser. B. 13(3):